

佳作 (子どもの部)

「絵本との思い出」

荒川区立第三中学校二年

高羽 桃葉

柳田先生、こんにちは。

私は、小学校一年生の頃、『きつねのでんわボックス』という絵本が大好きでした。

まだ入学して間もないとき、学校の図書館で出会いました。人間の男の子に亡くなった子ぎつねを重ねる母ぎつね。その姿に感動した私は、たちまち、『きつねのでんわボックス』が大好きになりました。何度も借りてくり返しくり返し読み、図書館に行ったときはいつも絵本の棚にあるのを確認し

て、にこにこしていました。

そんなある日、図書の授業で借りる本を悩んでいた二人の友達に『きつねのでんわボックス』をおすすめしました。そして次の日、普段あまり本を読まない一人からは「おもしろかった。」と言ってもらい、もう一人からは「おふとんの中で泣きながら読んだ。」「めちゃくちゃ感動した。」と言ってもらいました。

先日、久しぶりに『きつねのでんわボックス』を読み、この絵本が大好きだったこと、友達に喜んでもらえてうれしかったことを思い出しました。小学校低学年のころの記憶はほとんどないにもかかわらず、心の中に残って、そのときのことを思い出させてくれた絵本には、先生が言っていたように、なにか不思議な力があるのですね。

私は今、学校で図書委員をしています。図書委員の活動にはおすすめの本を紹介するものが多く、文を考えることが苦手な私は、その事が少し憂鬱でした。でも、自分の大好きな物語を他の人に知ってもらい、おもしろかったと言ってもらえたときの嬉しい気持ちを思い出した今、誰かに本をおすすめしたいと思えました。

そして、そのことを思い出させてくれた絵本『きつねのでんわボックス』に感謝するとともに、絵本の不思議な力や魅力も伝えていきたいです。